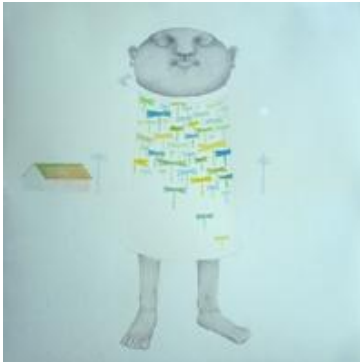


大地から小さな学校のおたより

ブラジル第3アリアンサ富山県日本語学校便り
NO5 12月号



この時期は雨がたくさん降ると聞きました。しかし今年の雨は少ないようです。それにそれほど暑くなっていないので、村の人たちも今年は様子が変だと言っています。12月は、村の人も果物の収穫時期でみんな忙しくしています。11月まで日本語学校の子供たちと魚釣りに行っていました。12月は中止です。忙しいだけが理由ではありません。禁漁期に入っているからです。日本と同じように魚が卵を産んだり、魚が成長したりする時期には魚を捕ってはいけないそうです。

12月は、学習発表会を兼ねた卒業式があるため、日本語学校の子どもたちは、音楽発表、劇発表の練習で大忙しでした。

もちろん、ブラジルにもクリスマスはやってきます。

ブラジルのクリスマスは、「ナタール」と呼ばれています。恥ずかしながら意味は聞いていません。子どもたちも「クリスマス」とは言いません。「ナタール、ナタール」と言って楽しみにしていました。このクリスマスの時期は、町がにぎわっています。アリアンサの近くにミランドポリスという町があります。そこでは、夜10時になっても大勢の人でにぎわっていました。みんなクリスマスプレゼントを買っているようでした。また恋人たちも、クリスマスの夜景を楽しんでいるようでした。

写真に写っているサンタクロースは、ショッピングセンターの様子です。南半球は今が夏なので、皆さん半袖ですね。でもサンタクロースは半そでではありません。これはなぜなのでしょう。



お肉の大好きなブラジル人

「シュハースコ」って知っていますか。日本の方では「シュラスコ」という名称ならご存知の方がいるかもしれませんね。簡単に言えば焼き肉のことです。ブラジルのポルトガル語では「RA」を「ハ」と発音するので「シュハースコ」と言います。また「ロベルトさん」も「ホベルトさん」となります。

肉はブラジル人にとって大好きな食材の一つです。肉を買う時はキログラム単位で買うくらいです。ハムもこのように大きなものがたくさんあります。日本へ出稼ぎ経験のあるブラジル人は「日本は肉が高すぎる」と言っていました。私もそう思います。



ノロエステ地区野球大会

以前、ブラジルでは野球が盛んだとお伝えしました。ここアリアンサで野球大会が開かれました。ブラジル代表選手も参加していました。しかし、盛んな野球も今では野球人口が減る一方だと村の人から聞きました。かつて、アリアンサには3つのチームがありましたが今では1つのチームだけになってしまったそうです。野球は日系人にとって大切なスポーツの一つです。村の人たちは、なんとかして、野球を日本の文化として守っていきたいそうです。ちなみに写真は今年の日本語学校卒業生です。





今年の紅白歌合戦の司会を務めました。

私は、カラオケが大嫌いです。そんな私になんとも酷な仕事がありました。なんと紅白出場と司会です。紅白と言っても、アリアンサ地区紅白カラオケ大会です。ここブラジルでは、カラオケ大会が盛んで、熱を入れるあまり、衣装も凝りだす勢いです。

歌う曲は日本の歌です。「歌手のみなさん、ここに自分の曲のテープを持ってきてください」と言われた時には、「あっそうか、カラオケと言えども歌手なんだ」と思い、一気に緊張してしまいました。そんな緊張した私が歌った曲は加山雄三の「君といつまでも」、なんとも言えない複雑な「しあわせだなー」でした。そしてNHK紅白歌合戦の司会者の重圧も身にしみて分かってしまうのと同時に、日系人の歌に日本の心を求める気持ちも理解できたように思います。

日本語能力試験がありました。

行って日本語能力試験の付き添いにロンドリーナという町に行ってきました。本校からは1人だけ参加しました。能力試験を受けに来る人たちは日系人だけではありません。ブラジル人も多数いたり、日本語のブラジル人教師も1級に挑戦したりしていました。今年受けた本校の生徒は受かっているのでしょうか。結果は3月に郵送されるそうです。



「馬場記念、日本語学校卒業式」が行われました。

毎年この時期には「ナタールの集い」というクリスマス会が開かれていました。しかし、そのクリスマス会を開催してきた馬場かずみさんという方が昨年亡くなられたため、クリスマス会が中止となりました。日本語学校はいつもクリスマス会と一緒に学習発表会と卒業式をしてきたため、今年から馬場さんの名前をお借りして、馬場記念卒業式として、新たにスタートすることにしました。卒業式と言っても、50年続いた学習発表会を無くすわけにはいきません。子供たちは、音楽発表、劇発表の練習をたくさんしてきました。そして今年は11年日本語学校に通った西田勇二君が卒業しました。

幼稚園小学生の子どもたちは「きらきら星」「夕やけ小やけ」のピアノ演奏、劇「金のおの、銀のおの」をしました。劇が始まろうとすると、幕の後ろでは「せんせい、やりたくない」とか、じっと止まったまま動けなくなってしまった子もいました。とても緊張していたみたいですね。でも、セリフを間違えないで上手に演技することができました。固まっていた子も堂々と演技をしていました。

中高生は「コンドルが飛んでいく」をたて笛、電子キーボード、アコーディオンなどで演奏し、「さよなら友よ」をたて笛で演奏しました。練習では、私はあまり指導せず、リーダーに任せていました。正直「大丈夫かな」と思いましたが、さすが中高生、当日はしっかり発表していました。

今年は村の青年部にもお願いして発表してもらいました。今年は「桃太郎」の写真劇です。変わり果てた自分の姿に大笑い、家族も村の人たちも大笑いでした。

私も発表しました。一般の部で日本語を勉強していた方と一緒に、「ふるさと」「きよしこの夜」をたて笛で演奏しました。村の人たちも、口ずさんで歌っていました。やはり「ふるさと」は日本人の歌なのだ、ブラジルに来て実感することができました。

卒業証書授与、送辞、答辞が終わり、いよいよ卒業生退場です。バラ80本が用意され、村の人から一人ずつ花束をもらって退場しました。温かい卒業式になったようです。勇二君、卒業おめでとう。

